

主な農業制度資金

*P.24~26に相談窓口の連絡先等を記載

資金名	対象者	利率	償還期限	融資限度額	詳細	相談窓口*
日本政策金融公庫	農業改良資金	無利子	12年以内 (うち据置3年以内) ※総合化事業計画の認定を受けた場合は据置期間5年以内	【個人】 5,000万円 【法人・団体】 1.5億円		25
	スーパーL資金 農業経営基盤強化資金	0.60~1.00%	25年以内 (うち据置10年以内)	【個人】 3億円 (特認6億円) 【法人】 10億円 (特認20億円【一定の場合 30億円】)		
	スーパーW資金 農林漁業施設資金	1.00%	【設備資金】25年以内 (うち据置5年以内) 【関連費用】10年以内 (うち据置3年以内)	原則:負担額の80% 特例:負担額の90%		
	経営体育成 強化資金	1.00%	25年以内 (うち据置3年以内)	負担額の80%かつ 【個人及び農業参入法人】 1.5億円 【法人・団体】 5億円		
農業近代化資金	認定農業者、 認定新規就農者、 主業農業者等	1.00% ※認定農業者の 特例あり	7~20年以内 (うち据置2~7年以内)	【個人】 1,800万円 (知事特認2億円) 【法人・団体】 2億円 (農業参入法人1.5億円) 【共同利用施設(農協等)】 15億円		JA、 金融機関 等

※利率は令和6年1月18日現在です。最新の情報はホームページ等でご確認ください。



12年頃から鹿児島市の6次産業化人材育成塾で本格的にノウハウを学びました。にんじんジュースの委託製造を始めたのが13年。その後、自社でたまねぎドレッシングや菓子類、おでんなど様々なオリジナル商品を作っています。

Q 6次産業化に取り組む中で、苦勞したことは。

レストラン事業の中止です。13年に鹿児島市に「農園食堂 森のかぞく 名山レトロフド店」を開業しましたが、多くの方に利用していただきましたが、新型コロナウイルスの影響が直撃しました。特に、始良市の2号店は、オープン半年足らずで手を引く決断をし、すぐに弁当類のテイクアウトに注力しました。

今振り返ると、名山店は当初、メニューの価格設定にしても、こだわった食材の原価に見合うものではなく、安価で販売していました。飲食店としての様々な課題が浮き彫りになったのかもしれない。

コロナ禍を機に弁当・総菜の加工事業を拡大しました。スーパーや百

Q そのやま農園の経営にはどのような特色がありますか。

父の有機農業を子ども世代が協力して事業を引き継いでいるところで、6人兄弟の長男の私が主に営業・販売を、二男が湧水農場の管理を行う生産部長、三男は「森のかぞく」で総菜等の製造や野菜販売を行う店舗部長です。事業をどのように進めるか、方向性を話し合い、それぞれ分担して役割を果たすようにしています。

Q 6次産業化を目指す方にアドバイスをお願いします。

ビジネスは試行錯誤の連続ですが、チャレンジしないと成功は生まれません。たとえ、うまくいかなかったとしても、経験は後で生きてくるものです。繰り返しチャレンジし、コツコツと辛抱強く続けていくことが成功の秘訣だと思います。

チャレンジしないと成功は生まれません。失敗を恐れず、トライしてください。



そのやま農園 代表取締役 園山 宗光さん

本事例のポイント

- 自分たちの強みは何か、しっかりと自覚する
- 常に向上心を持ち、工夫を重ねる
- 入念な準備と戦略が重要
- 生産が安定すると取引はスムーズに進む

活用できる主な補助金

令和6年1月時点

*P.24~26に相談窓口の連絡先等を記載

管轄	補助事業名	概要	補助率	対象者	備考	詳細	相談窓口*
農林水産省	農山漁村振興交付金 農山漁村発イノベーション対策のうち 農山漁村発イノベーション推進事業 (農山漁村発イノベーション)創出支援型	① 2次・3次産業と連携した加工・直売の取組 ② 新商品開発・販路開拓の取組 ③ 直売所の売上向上に向けた多様な取組 ④ 多様な地域資源を様々な新分野で活用する取組 ⑤ 多様な地域資源を活用した研究開発・成果利用の取組	①~④ 1/2以内 ⑤ 定額	農林漁業者、民間事業者、市町村等	【事業期間】 1年間または2年間 【交付限度額】 500万円		26
	農山漁村振興交付金 農山漁村発イノベーション対策のうち 農山漁村発イノベーション整備事業 (産業支援型)	農林水産物加工・販売施設等の整備	3/10以内 (農山漁村発イノベーションに係る市町村戦略に基づき行う場合等は1/2以内)	農林漁業者団体、中小企業者 ※総合化事業計画または農工商等連携事業計画の認定が必要	【交付限度額】 原則1億円 (最大2億円)		
	強い農業づくり総合支援交付金 産地基幹施設等支援タイプ	集出荷施設・加工施設の整備等	1/2以内	都道府県、市町村、農業者の組織する団体等	【要件】 ● 受益農業従事者5名以上 ● 各品目ごとに面積要件あり ● 総事業費5,000万円以上等		
中小企業庁	ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金	機械・装置・工具・器具の購入等(設備投資等)	1/2~2/3以内	中小企業者等	【補助上限額】 750万円~1億円		22
	小規模事業者持続化補助金	機械・装置費、広報費、ウェブサイト関連費、展示会等出展費、新商品開発費等	2/3以内 (賃上げ枠のうち赤字事業者は3/4以内)	小規模事業者	【補助上限額】 50~200万円		8 9
県	農地利用効率化等支援事業	経営改善に必要な農業用機械・施設の導入	3/10以内	農業者等 ※地域計画のうち目標地図に位置付けられた者等	【補助上限額】 助成対象経費に10分の3を乗じて得た額、融資額、助成対象経費から融資額及び地方公共団体等による助成額を控除して得た額のうち最も低い額		26
	かこしまの農業未来創造支援事業 産地づくり対策	加工施設・機械の整備等	1/3以内	農業者の組織する団体等	【補助上限額】 1,000万円		
	新産業創出ネットワーク事業 新事業創出支援事業補助金	① ソフト支援 人材育成、試作・研究開発、マーケティング・販路開拓、専門家招聘 ② ハード支援 施設整備投資等	① 1/2~2/3以内 ② 設備投資額(下限1,000万円)×2%+(新規常用雇用者数×30万円)	県内中小企業者等	【補助上限額】 ①90~400万円 ②1,000万円		

その他



県の事業一覧



国の事業一覧(逆引き辞典)

野菜



安全・安心にこだわり、県の認証を取得 いちごの多彩な楽しみ方を発信

Data: 生産者情報

株式会社農Life
 【事務所・直販所】
 志布志市松山町尾野見3090
 ☎ 099-401-4192
 【観光農園「いちごの村」】
 ☎ 070-1574-1268



2004年 夫婦で旧松山町に移住
 2010年 「農Life生産組合」設立
 2016年 観光農園スタート
 2018年 株式会社設立

主な支援機関/
 鹿児島県大隅加工技術研究センター



Q 「農Life」の取組を教えてください。
 現在、60aのハウスで「紅ほっぺ」「淡雪」「さがほのか」「よつぼし」「恋みのり」の5品種を栽培しています。「淡雪」は志布志市発祥の非常に珍しい白いちごで、看板商品です。いちごは育て方によって味に差をつけられる作物です。2016年に開園した観光農園「いちごの村」ではいちごの品種の食べ比べができ、また摘み立てのフレッシュ・スムージーやアイスの販売もしています。手作りのベンチを設置し、来園者にゆったり楽しんでもらえるようになっています。

Q いちごを栽培するために移住してきたそうですね。
 夫婦とも大阪出身で、移住して20年になります。夫(2021年に死去)は、学生時代に知覧のいちご園で研修し、「自分も美味しいいちごを作って、みんなを笑顔にしたい」と話していました。ただ夫婦とも農業は初めてで、本当にゼロからのスタートでした。鹿児島は夫の父の出身地でもあり、移住先を志布志(旧松山町)にしたのは移住者や新規就農者への支援に行政が熱心だったからです。農Lifeは2010年、若手生産者で生産組合を立ち上げたのが始まりです。現在は法人化しましたが、

農Life

志布志市

赤く色づいた大粒のいちごは幸せな気分させてくれます。「農Life」を経営する丸野恵美子さんは生産から観光農園、スイーツの販売など、いちごの魅力発信に力を入れています。